

基本施策の振返りシート

基本施策	D4 人と自然が共生する環境をつくります
------	----------------------

主管課：環境政策課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
市民・事業者・行政等、すべての主体が	自然と共生する社会の実現に向け取り組んでいる

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
D4-1	野生生物の貴重な生息生育環境であり、市民の自然とのふれあいの場である里地、里山、里海の保全及び活用	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○市有林における森林保護(間伐、下刈、作業道開設) ○自然環境に配慮した河川整備(大井手川)
D4-1	地域ぐるみでの、野生生物の生活地域への被害防止対策	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○有害鳥獣に対する緩衝帯及び侵入防止設備の整備
D4-1	希少動物の生息、生育環境の保全	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○長崎市自然環境調査員による希少動植物及び外来生物等の調査 ○自然環境に配慮した河川整備(大井手川) ○ホタルの飛翔情報の発信と、全市一斉ホタル飛翔調査の実施
D4-2	自然とのふれあいの場の整備や市民参加型・自然体験型イベントの充実	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○親子環境教室の開催 ○相川休耕田、黒崎永田湿地公園での自然観察会 ○自然環境に係る出前講座 ○体験の森の森林体験館の利用提供 ○いこいの里の自然体験プログラムの実施 ○自然環境に配慮した河川整備



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
間伐材等の森林施業の実施により、3022haの森林施業を実施した。	水源かん養や土砂流失防止等の森林の公益的機能の充実が図られた。
間伐材を利用し木製品等を公共施設へ提供することで資源の有効活用や木材の良さや魅力等を伝えた。	間伐材の利用普及を促進し、伐採される樹木の有効活用を図り、森林整備、森林保護に寄与した。
有害鳥獣との棲み分け対策として侵入防止施設や緩衝帯を整備した	有害鳥獣鳥獣からの被害を防止し地域との共生を図る環境づくりに寄与した
親子環境教室を開催し、延べ782人(H28～H30)の参加があった。	参加者は身近範囲にも多様な自然や生物があることや、それらの重要性を認識できた。
自然環境に配慮した河川整備を実施した。の実施(環境護岸 L=245.9m)	日常的に自然環境に接する機会の創出につながった。
ホテルの飛翔情報の調査(81か所)を実施するとともに、市民への情報提供を行った。	身近な環境に残されている自然を把握するとともに、市民の自然環境の意識の醸成につながった。
体験の森の森林体験館により、森林、林業に関する啓発を行った。	体験により森林の重要性を知り、森林保護の意識の向上が図られた。
いこいの里における市民の体験プログラムを充実させるとともに、CRS活動の取り組みを継続して実施した。	市民が、土や植物、動物と親しむイベントを増やし参加者が増加したことで、自然とふれ合う機会の創出につながった。

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・管理について懸念される。	林業従事者の高齢化や減少、木材価格の低迷、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等。
希少種や外来種に対する市民の認知度が低い。また、外来生物による影響で生態系、人の生命・身体・農林水産業への影響について懸念される。	本市における希少種や外来生物に対する情報発信が十分でなく、それらへの市民の関心も低い状況である。
親子環境教室は常連の参加者が多い。	自然環境に関心の高くない子どもも参加したくなるような教室となるよう工夫を要する。

市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.38	20位 / 43項目中
	見直し	期待度	1.15	28位 / 43項目中

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
森林整備面積(植林、枝打ち、間伐等)[累計]	866ha (21年度)	↑ 目標値	1,232	1,424	1,616	1,808	2,000
		実績値	1,485	1,728	1,899	2,093	2,278
		達成率	120.5%	121.3%	117.5%	115.8%	113.9%

【後期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	H31	H32
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等) [累計]	2,093ha (26年度)	↑ 目標値	2,493	2,693	2,893	3,093	3,293
		実績値	2,505	2,773	3,022		
		達成率	100.5%	103.0%	104.5%		
ホテル飛翔定点確認箇所数	80箇所 (26年度)	↑ 目標値	82	81	81	81	81
		実績値	80	78	78		
		達成率	97.6%	96.3%	96.3%		

【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等)[累計]	環境保全に寄与するものである整備された森林面積を客観的な数値で指標とするものであり、妥当である
ホテル飛翔定点確認箇所数	ホテルの飛翔が確認できた地点数を、自然環境保護のされている地点として数値で指標とするものであり、妥当である。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号	
				完結	処理中	その他	具体的内容			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中		
基本施策D4 人と自然が共生 する環境をつく ります	環境政策課	指摘・意見・提案 ○ 地域との共生として、「ホテル」を指標としているが、地域によって違うのではないか。全体像が掴めるような何らかの指標をうまく設定してほしい。	環境政策課					●	1	市内全域81箇所でのホテル飛翔状況を確認することで自然環境保全の指標としているが、長崎市の自然環境全般を把握できる他の指標設定について検討していく。
			環境政策課					●	2	自然環境保全団体の加入者数が増えることが、自然環境保全に取り組んでいる市民の増加につながるの考えから成果指標としているが、団体によって活動内容も違っているため、今後は団体数も考慮しながら、成果指標の設定について検討していく。
	成果指標		○ D4-1の成果指標「自然環境保全団体加入者数」について、活動団体によって保全する団体、啓発する団体など向かう先が違ふ。会員数が多くても、団体数が仮に3つだとすれば、取り組んでいることは3つになるので、団体数も考慮すべきではないか。							
	評価シート		○ 自然というのは癒しを与えてくれる対象になっているが、最近の災害をみると脅威でもある。そういったものと共生しなければならぬので、その面での評価や取組みなどの記載も今後必要ではないか。			●			3	森林整備や河川整備、有雪鳥獣に対する侵入防止の整備の進捗などを、自然との共生の成果指標として整理していく。
	公共建築物の 木造化物		○ 人と自然が共生することについて、仕事という部分と、自然という部分をもう少し広く捉えて、保全だけではなく「共生」というところをもう少し幅広く捉えて欲しい。	環境政策課				●		4
		○ 市有林の間伐材を加工してフrawerポットやバンコ椅子等を製作しただけで、公共建築物の木造化、木質化が推進されたとは言えず、そこで満足してはいけない。公共建築物等の木材利用促進を実現するよう努力すべきであり、そこまではできていないと記載すべきである。	農林振興課				●		5	「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」に基づき、小中学校や公民館の図書室等の公共建築物等の木造化を推進しているが、今後も公共施設の建築・改修計画の際には、設計段階から木材利用の促進を働き掛けて、積極的な利用につながるよう取り組んでいきたい。 また、今後は、記載内容に留意したい。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号	
				完結	処理中	その他	具体的内容			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中		
		<p>○ 市民意識調査の質問について、「環境保全活動に参加したことがありますか。」となっていると、かなり意識を持っていないといけないが、環境保全を意識した行動をしていますかと聞くだけでも全然違ってくるのではないかと。</p>	環境政策課	●					<p>環境保全活動に参加したことがある人の数値を把握したいための設問を設定しており、平成29年度から質問に事例を追加し、市民が答えやすい内容に変更した。今後も、より実態に近いアンケート結果が得られるように必要に応じて見直しを行っていく。</p>	6
		<p>有害鳥獣対策について、イノシシが農作物を荒らすだけではなく、崖などを荒らしてしまい山崩れが起こる状況になっている。もっと市で人を配置して対応してほしい。</p>	農林振興課	●					<p>イノシシ対策については、防護・棲み分け・捕獲の3対策を関係団体や他部局と連携しながら実施している。被害相談対応等の業務については、民間の専門業者に委託することにも、捕獲については、長崎市有害鳥獣対策協議会や地域農業者等で組織する捕獲隊と連携して取り組んでいる。また、市内においては、土木、環境、教育委員会等の関連部局と連携しながら、石垣の崩れ起こし等の生活環境被害に随時対応しており、市内外の関係者と連携を図りながら、適正な人員体制で取り組んでいる。</p>	7
		<p>○ 自治会の役員に市職員がいるとわからないことを聞くことができるので、市職員に自治会の役員に入ってもらおうことについてお願いしたい。</p>	自治振興課		●				<p>自治会加入に関し、職員に対して加入促進を図っているところであるが、役員については、それぞれの自治会の選任方法等があるため、対応は難しい。</p>	8

令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月26日

基本施策	D4 人と自然が共生する環境をつくります				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図			
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	自然と共生する社会の実現へ向け取り組んでいる。			
基本施策主管課名	環境政策課	所属長名	山本 勉		
関係課名	水産農林政策課、農林振興課、土木建設課、北総合事務所地域整備課				

基本施策の評価

Ba 目標をほぼ達成しており、目的達成に向けて順調に進んでいる

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから「B」とする。
- ・個別施策の成果指標の二つすべてが100%以上の目標達成率となったことから「a」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設等の森林施業を実施したことにより、土砂流出防止や水源かん養、空気の浄化などの公益的機能の充実が図られ、目標面積以上の森林整備を実施した。
- (2) 「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」に基づき、公共建築物等の木造化・木質化については、学校図書館において間伐材を利用した木製品等を提供する取り組みを推進するなど、木製品等を公共施設へ提供することで資源の有効利用や木材の良さや魅力を伝えることができた。
- (3) 相川休耕田、黒崎永田湿地自然公園、いこいの里及び体験の森等を活用し、親子環境教室、自然観察会、自然体験学習会並びに地域・団体との協働による里山清掃及び森林清掃等を実施したことにより、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚が図られた。
- (4) 有害鳥獣による生活環境被害の軽減を図るため緩衝帯や侵入防止施設の整備を行ったことなどにより被害が減少した。
- (5) 維持管理が行われない森林の増加による森林の公益的機能の低下や、希少種や外来種に対する市民の認知度の低さなどが課題として残っている。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等) [累計]	2,093ha (26年度)	↑	目標値	2,493	2,693	2,893	3,093	3,293
			実績値	2,505	2,773	3,022		
			達成率	100.5%	103.0%	104.5%		
ホテル飛翔定点確認箇所数	80箇所 (26年度)	↑	目標値	82	81	81	81	81
			実績値	80	78	78		
			達成率	97.6%	96.3%	96.3%		

今後の取組方針

- (1) 年次的な希少動植物及び外来生物等の調査やモニタリング調査を引き続き行う。
- (2) 地域・団体等、多様な主体との協働による事業を展開することで、豊かな自然とのふれあいや自然保護意識の高揚を図る。
- (3) 自然環境の保全と再生を図るため、森林体験学習などの親子での自然観察会、自然体験型学習会などの環境教育及び環境イベント等による自然環境保全意識の啓発を図るとともに、自然環境に配慮した公共工事に取り組み、また、水源かん養や土砂流出防止等の維持のため、森林整備を行う。
- (4) 林業労働力の安定的確保の資するため、担い手への支援を継続して行う。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Ba」については、所管評価のとおり。
- 個別施策D4-1の今後の取組方針について、市民の関心を高めることでどういう状態を目指すのかという記載が足りていない。「市民の認知度を上げることで、在来種の生息環境の保全につなげる」などの記載を追加すること。
【振返り】
- 成果指標「ホタル飛翔定点確認箇所数」について、指標は妥当としているが、審議会からの指摘に対して指標設定を検討するとしているので、現在の指標以外に環境状況を表す指標を検討するのであれば、説明を追記しておくとい。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1 自然環境の保全を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	生物多様性の保全に取り組んでいる。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	山本 勉

平成30年度 of 取組概要

<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施した。 ・市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設、鹿による造林木の剥皮被害防止対策などを行い、私有林等においても、森林経営計画作成など森林施業活動に対して支援などを行った。 ・長崎市産材など地域産材を活用するため、「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」に基づき、市有林の間伐材を活用し、フラワーポット、バンコ椅子等の加工品を製作し、小中学校等の公共施設等への提供や一般市民への販売を行った。 ・小中学生とその保護者を対象に、環境保全への意識や行動を高めてもらうために親子環境教室を5回開催した。 <p>【D4-2から再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川大井手川の河川改良工事において、自然環境に配慮した河川整備を行った。【D4-2から再掲】 <p>②生物多様性の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全のバロメーターのひとつとして、市域の主要な15箇所河川付近の住民から、約1ヶ月にわたり、ホタルの飛翔情報(毎週2回、計7回)を得て、市ホームページや本館、地域センターにおける掲示、地元紙における掲載等広く市民に情報発信を行った。また、全市一斉ホタル飛翔調査として、定点の81箇所(前述15箇所含む)で同様の調査を実施し、結果を「ながさきホタルマップ」としてとりまとめた。 ・有害鳥獣の棲み分け対策として、市有林に住家が隣接している箇所において、有害鳥獣を寄せ付けない環境整備として、緩衝帯2.8haを整備した。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
自然環境保全団体加入者数(※)	642人 (26年度)	↑ 目標値	862	972	1,082	1,192	1,300
		↑ 実績値	729	1,192	1,192		
		↑ 達成率	84.6%	122.6%	110.2%		

※自然環境の保全を目的とする市民団体の加入者数(20団体)自然環境についての学習を行う団体 環境保全活動を行う団体

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐等の森林施業の実施により、林内の適度な光の射し込みや通風が確保されたことで、造林木の育成や下層植生の生育が促進された。 ・公共建築物等の木造化・木質化については、学校図書館において間伐材を利用した木製品等を製作し提供する取組みを推進するなど、木製品等を公共施設へ提供することで資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えることができた。 ・有害鳥獣との棲み分け対策として、侵入防止施設や緩衝帯2.8haを整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水源かん養や土砂流失防止等の森林の公益的機能の充実が図られた。 ・森林整備の際に産出される間伐材による木製品の利用普及を促進し、伐採される樹木の有効活用を図り、森林整備、森林保護に寄与する。 ・有害鳥獣からの被害を防止し、地域との共生を図る環境づくりに寄与した。
<ul style="list-style-type: none"> ・山、川、海のそれぞれの生き物を対象に親子環境教室を開催し291名の参加があった。【D4-2から再掲】 ・大井手川は、防災性向上に合わせて自然環境に配慮した植樹ブロックや魚巢ブロック等の河川整備に着手した【D4-2から再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な範囲にも多様な自然や生物があることや、それらを守っていくことの重要性の認識につながった。 ・自然環境に配慮した河川が増加した
<p>②生物多様性の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの飛翔情報及び全市一斉ホタルの飛翔調査の実施により、市民への速やかな情報提供を行うとともに、ホタルマップや各施策の基礎データとして活用を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルが出現する場所や状況を積極的に市民にPRすることにより身近な場所に残されている自然とともに、自然環境保全の意識を向上することにつながった。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然環境保全への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・確保について懸念される。 ・大井手川の環境に配慮した計画により整備を実施しているが、並行する県道の整備や、下水道等の支障物件の移設に時間を要している【D4-2から再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・林業従事者の高齢化や減少、木材価格の低迷、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等による ・関係する事業全体の進捗・影響などによる
<p>②生物多様性の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少種や外来種に対する市民の関心や認知度が低く、それら生物の良好、適切な生育環境の確保、対応が懸念される。(D1-1に再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・希少種や外来種に対する情報発信が十分でない。(D1-1に再掲)

今後の取組方針

①自然環境保全への取組み

- ・自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査について、効果的な場所の選択を行い引き続き実施する。
- ・希少種の保護に向け、周辺市民や関係団体等と連携し、実態調査、生息・生育環境の保全を図る。
- ・森林が有する多面的機能を発揮させるため、林業労働力を安定的確保に資する担い手に対する「ながさき森林づくり担い手対策事業費補助金」などによる支援を引き続き行う【C5-3へ再掲】
- ・間伐材加工所において製材加工した木製品等を公共施設等へ提供することで、特に、子供の頃から木に慣れ親しんでもらうため、小中学校や公民館等の木質化を推進し、森林資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えるなどの地域産材のPRに引き続き取り組む。公共施設への木材利用の促進については、公共施設の建築・改修計画の把握を行うことで、設計段階から木材利用の促進を働きかけ、利用につながるよう取り組んでいく。
- ・親子環境教室では、参加者の増加を図るため時期や内容についての検討を行い、魅力的かつ効果的なものとする。【D4-2から再掲】
- ・防災上、緊急を要する箇所を優先的に整備する中でも、生態系や親水性に配慮した河川の整備を実施しており、関係機関との調整を図り事業の進捗に取り組む。【D4-2から再掲】

②生物多様性の周知・啓発

- ・ホテルを含めた希少な動植物や外来種について、市民の関心を高めるよう積極的な広報・啓発に取り組む。【D1-1へ再掲】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 自然環境保全推進事業 【環境政策課】</p> <p>(事業目的) 長崎市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、自然環境の保全及び創造と市民の普及・啓発を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査やホタルの里づくり事業の推進並びにビオトープの保全に努めるとともに、人と自然とがふれあえる場の創出や自然体験学習の場を確保する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	ホタル飛翔定点確認箇所数	
		目標値	81 箇所	81 箇所
		実績値	78 箇所	78 箇所
		達成率	96.3 %	96.3 %
		決算(見込)額	1,874,225 円	1,955,244 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>自然環境保全のバロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>	<p>自然環境保全のバロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。</p> <p>地域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ではホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、土砂埋め立て工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 河川流域の住民の協力を得て、定点調査の目標は達成できた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民へ速やかに情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>	<p>(取組実績) 平成27年度から定点の82箇所ではホタル飛翔調査を実施してきたが、そのうち1箇所が、工事により調査不能となったため、81箇所に変更となった。</p> <p>また、相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、維持管理や観察会を行うとともに、自然環境調査委員による希少動植物の調査を実施した。</p> <p>(成果・課題等) 河川流域の住民の協力を得て、定点調査の目標は達成できた。</p> <p>市ホームページへの掲載や市役所本館玄関等での掲示により、市民への瞬時の情報提供をすることで、市民の関心も高くなったが、一方で観賞時のマナーアップが課題となっている。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
2	<p>(事業名) 間伐材活用促進費</p> <p>【農林振興課】</p> <p>(事業目的) 市有林の間伐材等の有効活用を図るとともに、地域資材のPR及び森林資源の有効活用を図る。</p> <p>(事業概要) 市有林の間伐材等を板材や角材等に製材し、資材の提供や木製品を製作し、市施設や自治会等公共的施設等へ提供及び貸出しを行う。 また、一般市民への販売も行う。</p>	実施年度	継続		
		成果指標	間伐材の利用本数		
		目標値	1,000 本	1,000 本	
		実績値	951 本	975 本	
		達成率	95.1 %	97.5 %	
		決算(見込)額	4,133,406 円	3,515,431 円	
		成果指標及び目標値の説明	間伐材の年間使用本数を成果指標とした。 過去(H20、H21)の使用本数の平均値を目標とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	<p><公共施設等への提供></p> <p>フラワーポット … 66基</p> <p>バンコ椅子 … 102脚</p> <p>ブクトラック ※ … 20台</p> <p>楕円テーブル ※ … 7台</p> <p>その他特注製作や資材として提供</p> <p>※公共建築物等木質化推進事業にて製作・提供</p> <p><販売></p> <p>フラワーポット資材 … 100基分</p> <p>バンコ椅子 … 2脚</p> <p>木材市場出荷 … 483.28m3</p> <p>うち一般建築材 247.28m3</p> <p>バイオマス材 236.00m3</p>	<p>(取組実績)</p> <p><公共施設等への提供></p> <p>フラワーポット … 87基</p> <p>バンコ椅子 … 74脚</p> <p>ブクトラック ※ … 18台</p> <p>楕円テーブル ※ … 8台</p> <p>その他特注製作や資材として提供</p> <p>※公共建築物等木質化推進事業にて製作・提供</p> <p><販売></p> <p>フラワーポット資材 … 105基分</p> <p>バンコ椅子 … 2脚</p> <p>木材市場出荷 … 271.984m3</p> <p>うち一般建築材 97.176m3</p> <p>バイオマス材 174.808m3</p>
			(成果・課題等)	<p>「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」により、市有林の間伐材等を活用し、公共建築物等の木造化、木質化など木材利用を積極的に取り組んだ。</p> <p>また、これまで曲り等により一般建築材として不向きな材について、林内に放置していたが、今年度、バイオマス材として出荷している。</p>	<p>(成果・課題等)</p> <p>「長崎市公共建築物等木材利用促進方針」により、市有林の間伐材等を活用し、公共施設等へ提供した。</p> <p>公共施設や自治会等に木製品を提供することにより、地域産材のアピール及び森林資源の有効活用を図っていく。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度	
3	(事業名) 【補助】山林整備事業費(公有林) 【農林振興課】 (事業目的) 市有林の森林資源の有効活用と公益的機能の充実を図るため整備を実施する。 (事業概要) 集約化実施計画及び特定間伐等促進計画、森林経営計画に基づき、間伐等の保育、道路網等の整備を実施する。 【市直営林面積】A=1,035.18ha	実施年度	継続		
		成果指標	年間整備面積		
		目標値	30.0 ha	30.0 ha	
		実績値	19.8 ha	28.9 ha	
		達成率	66.0 %	96.3 %	
		決算(見込)額	14,920,274 円	14,240,896 円	
		成果指標及び目標値の説明	長崎市有林の年度毎の森林整備(保育等)面積を成果指標とした。過去の森林整備面積の平均値を目標とした。		
		取組実績、成果・課題等	(取組実績)	利用間伐・枝条巻付・・・ 7.34ha 除間伐・・・ 1.58ha 下刈り・・・ 8.91ha 防火広場手入れ・・・ 0.68ha 防火線手入れ・・・ 1.24ha 小計 19.75ha 森林作業道開設・・・ 2,259m	(取組実績) 利用間伐・・・ 7.48ha 下刈り・・・19.36ha 防火広場手入れ・・・ 0.54ha 防火線手入れ・・・ 1.56ha 小計 28.94ha 森林作業道開設・・・ 1,364m
			(成果・課題等)	利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。	

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-2 自然とふれあう場と機会を創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	自然とふれあうことで、安らぎや潤いを感じている。	
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	山本 勉

平成30年度 of 取組概要

- ①自然とふれあう機会の創出
- ・小中学生とその保護者を対象に、環境保全への意識や行動を高めてもらうために親子環境教室を5回開催した。【D4-1へ再掲】【D5-1へ再掲】
 - ・相川休耕田及び黒崎永田湿地自然公園において、幼稚園児～大学生及び小中学校教員等を対象とする学習会・研修会を通して希少動植物とのふれあいを図るとともに、里地・里山・里海等においても、市民環境活動団体や多くの市民が環境保全活動を通して自然とのふれあいを図った。
 - ・小学校、自治会及び市民団体等からの依頼で自然環境に係る出前講座(ホタルの生態、川の生きもの観察会等)を4回実施し、計674名の参加があった。
 - ・体験の森の森林体験館、休養宿泊施設、林間キャンプ場、運動広場等の施設において利用提供を行った。
 - ・いこいの里において、土と自然に親しみながらレクリエーションができるよう、様々な体験プログラムを実施するとともに、市民・団体により新たな体験プログラムを実施した。また、民間企業が、CSR活動(企業の社会的責任を果たす活動の場)として、昨年に引き続き、シバザクラの植樹を行った。
- ②自然とのふれあいの場の整備
- ・二級河川大井手川の河川改良工事において、自然環境に配慮した河川整備を行った。【D4-1へ再掲】

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
自然とのふれあい体験イベントへの参加者数※	68,804人 (26年度)	↑ 目標値	71,100	72,250	73,400	74,550	75,700
		↑ 実績値	77,494	80,707	84,165		
		↑ 達成率	109.0%	111.7%	114.7%		

※ 市内で開催される市民向けの自然とのふれあい体験イベントへの参加者数及び自然体験施設利用者数
(あぐりの丘:58,266人 市民の森:21,516人 ペンギン水族館:1,588人 科学館:116人 相川・黒崎ビオトープ野外観察会:162人 その他:2,517人)

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子環境教室の参加者(291人)は、里地・里山・里海、ピオトープ等における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-1へ再掲】 ・森林体験の提供を行うことにより、森林の大切さを知り、森林保護につながる行動を行う市民を増加させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は専門家による説明を交えながら自然観察や生物の同定を実施することで身近な範囲にも多様な自然や生物があることや、それらを守っていくことの重要性の認識につながった。 ・体験の森の森林体験館等の施設を利用提供することで、市民の自然環境保全における森林及び林業の重要性の啓発や、自然愛護意識の高揚が図られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・いこいの里において、昨年以上に市民の体験プログラムが増えたことで、新たな魅力が加わった。これに伴い、より多くの来園者が土と自然に親しむことができた。また、CRS活動の場としての取組みも継続することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が土や植物や動物と親しむイベントを増やし、参加者が増加したことで、自然や動植物を大切にしている意識啓発につながった。
<p>②自然とのふれあいの場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井手川は、防災性向上に合わせて、自然環境に配慮した植樹ブロックや魚巣ブロックなどの河川整備に着手した【D4-1へ再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に配慮された河川整備が進んだため、日常生活で保護された自然に接することができる市民の増加につながった。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①自然とふれあう機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の輪が広がっているが、あぐりの学校(ワークショップ)への新規参加者が伸びていない。 ・体験の森は利用者が減少している。 ・親子環境教室の参加者については、自然に関心の高い常連の方が多く、新たに参加される方の獲得が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動の成果やあぐりの学校(ワークショップ)の情報発信が十分ではない。 ・猛暑や遠足利用の減少の要因もあるが、開設から20年以上経過し、老朽化している施設がある。 ・教室の内容、周知方法が、これまであまり環境に興味関心を持っていなかった子どもでも参加したくなるような内容となっていない。
<p>②自然とのふれあいの場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大井手川の環境に配慮した計画により整備を実施しているが、並行する県道の整備や下水道等の支障物件の移設に時間を要している【D4-1へ再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する事業全体の進捗・影響などによる

今後の取組方針

①自然とふれあう機会の創出

- ・親子環境教室では、参加者の増加を図るため適切な開催時期の検討を行うとともに、引き続き、魅力ある多様なメニューを開拓し、自然環境に対する意識の高揚を図る。【D4-1へ再掲】【D5-1へ再掲】
- ・体験の森については、今後も親子参加型の自然体験型学習会などのイベント実施や地域・団体等との協働による事業(里山清掃・森林清掃等)を継続的に展開し、自然とのふれあいの場の提供を図っていく。
- ・いこいの里については、市民協働による体験プログラムを含めて様々な体験プログラムを実施し、来園者が更に土や自然にふれあうことができるよう努める。また、自然体験学習の場やCSR活動の場としても活用できるよう積極的にPRに努める。
- ・いこいの里の市民協働の取組みについては、市民活動の成果を記録した活動パンフレットによる広報や、活動者が仲間を新規参加者として紹介する仕組みを取り入れ、活動の輪が広がるよう積極的な取組みに努める。

②自然とのふれあいの場の整備

- ・防災上、緊急を要する箇所を優先的に整備する中でも、生態系や親水性に配慮した河川の整備を実施しており、関係機関との調整を図り事業の進捗に取り組む。【D4-1へ再掲】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 体験の森運営費 【水産農林政策課】</p> <p>(事業目的) 指定管理者制度により、体験の森の管理運営を行う。</p> <p>(事業概要) 1. 施設修繕 老朽化した施設等の修繕を行う。 2. 管理等委託 指定管理者制度により施設の管理運営を行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	利用者数	
		目標値	25,000 人	25,000 人
		実績値	26,279 人	21,516 人
		達成率	105.1 %	86.1 %
		決算(見込)額	20,678,220 円	20,324,784 円
		成果指標及び目標値の説明	自然環境保全意識の向上のためには森林体験学習など親子での自然観察会や自然体験型学習会などへの参加者が重要であるため、成果指標とした。 H17～H21の5ヵ年平均を目標値としている。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 平成29年度末現在、施設利用者数26,279人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。 (成果・課題等) 熊本地震の影響により前年度は利用者が減少していたが、平成29年度は前々年度実績より利用者数が増し、目標値を上回った。	(取組実績) 平成30年度末現在、施設利用者数21,516人 親子参加型の自然体験型学習やウォーキングなどのイベントを実施。 (成果・課題等) 猛暑や遠足利用の減少により、利用者が減少したことから、前年度より利用者が減少し、目標値を下回った。		
2	<p>(事業名) あぐりの丘運営費 (H24から「あぐりの丘体験費」を運営費に統合)(H26から「いこいの里施設整備事業費」を運営費に統合) 【農林振興課】</p> <p>(事業目的) 1. いこいの里(あぐりの丘を含む)の施設の運営及び環境の維持管理 2. 市民及び来園者が、土と自然に親しみながら行うレクリエーション活動ができるよう様々な体験の場を提供する。</p> <p>(事業概要) 1. 「施設の維持管理」の実施 施設・設備の維持管理、花・樹木管理、動物の飼育、園内清掃、施設・設備の修理 2. 「各種体験教室」の実施 料理体験、ふれあい動物体験、収穫体験、フリーマーケット、飯ごう炊さん、幼稚園収穫体験、切りばら体験、他各種体験の実施 3. 市民協働の活動の支援 ワークショップ、あぐりフェス及びあぐりの学校の開催・支援、広報・宣伝</p>	実施年度	継続	
		成果指標	あぐりの丘体験プログラムの参加者数	
		目標値	65,606 人	66,219 人
		実績値	96,765 人	100,565 人
		達成率	147.5 %	151.9 %
		決算(見込)額	106,010,358 円	104,263,478 円
		成果指標及び目標値の説明	あぐりの丘における各種体験の提供に対して、参加者数が重要であることから、体験プログラム等の参加者数を成果指標とした。 基準値の61,314人(H22年度実績)から毎年1%の増加とした。なお、H25年度から市民協働による新たな運営の仕組みづくりの構築を開始し、市民主体による体験プログラムへの参加者数も加算することとした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 各種体験の継続と料理特別教室等で40種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みで、36団体が57種類の体験を実施した。 (成果・課題等) 各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数が広がっており、昨年度と同様に実績値が目標値を大きく上回った。	(取組実績) 各種体験の継続と料理特別教室等で42種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みで、44団体が65種類の体験を実施した。 (成果・課題等) 各種体験の継続及び市民協働による活動者の体験プログラム数が広がっており、昨年度と同様に実績値が目標値を大きく上回った。		

3	<p>(事業名) 【補助】河川等整備事業 大井手川 【土木建設課】</p> <p>(事業目的) 防災性向上と合わせ、潤いのある河川環境を形成するため、整備を行うものである。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成13～令和5年度 【総事業量】道ノ尾駅付近から寺川内橋まで L=2,150m 【総事業費】2,500,000千円 【事業費累計】1,318,536円</p>	実施年度	平成13～令和5年度	
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	51.4 %	53.8 %
		総事業進捗率	47.8 %	52.7 %
		達成率	93.0 %	98.0 %
		決算(見込)額	119,975,069 円	123,799,708 円
		当該年度執行率	57.1 %	82.2 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 環境護岸L=74.9m 低水路L=22.3m	(取組実績) 環境護岸L=144.1m、支障物件移設補償3件を実施した。		
	(成果・課題等) 防災性向上に合わせて、自然環境に配慮した河川整備がなされているが、工事現場の土質が脆弱であり、施工に期間を要したため、工期を延長した。それに伴い、86,236千円を繰り越したため、当該年度執行率が低下している。	(成果・課題等) 支障物件移設に期間を要したため、県施工工事が延長された。それに伴い、県施工負担金21,025千円を繰り越した。今後も工事の進捗を図ると共に、自然環境に配慮した整備に地元とも調整を図りながら進める。		
4	<p>(事業名) 公園施設整備事業 黒崎永田湿地自然公園 【北総合事務所地域整備課】</p> <p>(事業目的) 長崎県内でも数少ない湿地を有する公園であり、希少生物も生息していることから、自然鑑賞会を行うとともに、地域と連携して訪れる人が楽しめるよう整備を行うもの。</p> <p>(事業概要) 【事業期間】平成24～令和元年度 【総事業量】木道L=約130m、W=1.7m 【総事業費】132,393千円 【事業費累計】131,137千円</p>	実施年度	平成24～令和元年度	
		成果指標	事業進捗率(事業費ベース)	
		目標値	91.7 %	100.0 %
		総事業進捗率	98.4 %	99.1 %
		達成率	107.3 %	99.1 %
		決算(見込)額	22,043,883 円	443,880 円
		当該年度執行率	91.9 %	26.1 %
		成果指標及び目標値の説明	事業の進捗を客観的に判断できる数値として、総事業費に占める事業費累計の割合を事業進捗率とし、成果指標とした。当該年度の予算を含めた事業進捗率を目標値とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 園路整備工 L=38m 湿地整備工 A=595㎡ 擁壁工 L=8m 管理施設工 N=1基 植栽工 2,650株	(取組実績) 土地(権利者)調査 A=1903.72㎡		
	(成果・課題等) 木道の増設、浚渫や植栽を行うことにより、公園の回遊性及び魅力向上を図った。	(成果・課題等) 未買収地の取得にあたり、所有者不明及び相続人を確定し、早期に買収を完了させる必要があるため。		

